

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370700447		
法人名	医療法人社団 開会		
事業所名	グループホームると(1号館)		
所在地	熊本県天草市下浦町2090-7		
自己評価作成日	平成27年9月18日	評価結果市町村受理日	平成27年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	平成27年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「最後は自分が住み慣れた場所で。そして最後まで自分の好きな事をしたい」とこの想いから私たちのグループホームはターミナルケアまで取り組んでいます。・したい事はその日のうちに・実行できる様にスタッフ間で協力しながらケアを行い、最後を迎える時には「ここ(ると)でよかった」と感じてくださる様に心のこもったケアを行っていきたく思います。「ゆったり・楽しく・仲良く」の理念の基、入居者の方とスタッフが同じ時間を支えあいながら穏やかに過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

\* 老健・ケアハウス・地域密着型特養・医院等が併設された、小高い丘の上に位置するグループホーム。開設当初に家族と話し合って決めた、「ゆったり、楽しく、仲良く」の理念の下、日常生活の中での小さな気づきを職員間で共有しながら、職員も楽しく仕事をするをモットーに、常に利用者の笑顔を引き出す努力をしている。\* 職員のほとんどが、当ホーム又は他施設で看取りを経験しており、看取りを日常生活の延長上にある自然なものとして受け入れている。本人・家族の意向を確認しながら、共に生活してきた入居者の最期をより良いものにするため、スタッフ全員で取り組んでいる。\* ホーム専用の車を所有しており、「今日はお天気がいいから出かけよう」「新聞に載っていたところに行こう」と、行きたい時に行きたいところに、柔軟な外出が行われている。桜・彼岸花・菖蒲などのお花見や紅葉狩り、海を見に行ったりと、手作り弁当持参で楽しく気分転換を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり 楽しく 仲良く」と分かり易い言葉で理念をあげ、スタッフ全員が共有し実践につなげるよう努力しています。	開設当初に、入居者家族と話し合っ「ゆったり、楽しく、仲良く」の理念を作成。新人職員には、実際のケアに理念を反映させていくことについて、入居者との日常生活の中で、時間をかけて感じ取ってもらうようにしている。入居者が喜んでくれた時の気づきを全職員で共有すると共に、入居者の笑顔を引き出すには、自分たちが楽しく仕事をするのが大事と認識し、心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣地域主催の祭りに参加したりしていません。職員は準備などで参加していますが、日常的な交流までにはつながっていません。	ホームが高台にあり、地域住民が日頃から気軽に立ち寄るのは、難しい現状であるが、法人全体で行う夏祭りや12月の豪華なイルミネーション見学には、地域の方が多く訪れている。また、地域のふるさと祭りや運動会には、利用者と共に参加したり、下浦祭りでは毎年獅子舞が来訪し、各部屋を回るなど、楽しい交流が行われている。なお、敬老会・ふるさと祭り・運動会等地域のイベントの際は、ホームの車で地域の方たちをイベント会場まで送迎するボランティアを行っており、地域に喜ばれている。	社協会長より、老人会での施設見学会や説明会開催の要望があっており、実現が期待される。さらに、社協との協力関係を深めていくことをきっかけに、ホームに対する地域の理解や交流が広がることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献のあり方の検討が必要な状況です。運営推進会議を利用して貢献案を検討したいと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では委員からの意見を全職員で共有しサービスに反映するようにしています。	入居者・家族・民生委員・地域消防団団長・地区社協長・地域包括担当者をメンバーに、2ヶ月に1回開催。開催日は年度当初に計画を立てて委員に知らせ、再度10日ほど前に通知を出すなど、出席率アップについて工夫が見られた。	ホームの活動状況と予定は詳細に伝えているが、意見交換が広がっていない状況が伺える。「地域との交流について」「災害対策について」等、事前に1つ検討課題を決めて通知しておくのも良いと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者間での連絡や情報の交換、相談など密な連携が取れるように努力しています。	市からは、随時メールで必要な情報や連絡が送られてきている。不明なこと等は、その都度電話で確認したり、提出書類は持参して直接話をするなど、連携が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に身体拘束に関する外部研修に参加してもらい、他職員に対して伝達し学んでもらっています。また日常ケアにおいてもお互いのケアを確認しあい、拘束や虐待にならないかと考えるようにしています。	新人の職員には、マニュアルを使って「こういうことが身体拘束にあたる」ということを、研修している。同じ行為でも、その目的によって身体拘束になるということを全員が理解できるよう、気づいた職員がお互いに注意しあっており、身体拘束のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃のケアの方法が虐待に当たらないか又誤解されるようなケアではなかったか等、全職員で話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加している。現在対象者はいないが、必要時には適切な対応ができる様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に全てのご家族へ説明を行い同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から意見があった場合にはすぐに全職員で共有するようにしています。面会時なども意見をうかがうようにしています。	毎月家族会を開催して食事を共にしたり、家族の面会時には、スタッフも一緒にお茶を飲みながら利用者の日頃の様子を伝えるなど、家族が意見・要望等を話しやすい心がけられている。また、毎月の請求書には、今月の1枚として1番いい写真を添付し、その月の行事予定表と入居者の近況を添えて送付しており、遠方で面会が少ない家族への配慮が見られた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行っているミーティングにて自由な意見を出し合い提案などを行っています。	毎月、2ユニット合同でミーティングを行い、ケアに関すること、業務改善に関すること等、活発に意見を出し合っている。また、事業所の意見・要望等を代表者に提案し、必要があると判断されれば、迅速な対応が行われおり、風通しの良い環境であることが伺われた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表や目標管理シートを活用し各職員の仕事に対する目標やがんばり度など把握できるようにしています。 2/8		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加してもらっています。分からないこと等は都度聞いてもらいます。解決するようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会天草ブロックに参加し勉強会や意見交換をおこなっています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは本人の話をよく聞き、その方の思いを把握するところからのケアの実践にあたっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、その時々家族の方の思いを聞くようにしており、その思いをケアの中に取り入れるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズを踏まえ、適切なサービスが支援できる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃より、職員が入居者の方に昔話を聞きながら分からないことは教えていただきながら、お互いに支え合い暮らしていけるように心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の連絡をこまめに行い、ケアに関する困りごとなどはご家族にも相談し、共に解決していくように意識共有を図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が継続できる様に努めています。	入居開始時に「人生史」を書いてもらったり、前に居た施設から情報を得て入居者の背景を詳しく把握し、日頃のケアに活かしている。情報を基にドライブで以前住んでいた場所に連れて行ったり、地域のふるさと祭りや運動会に出かけて友人と出会ったり、以前ケアハウスに居た人にはケアハウスの友人に来てもらうなど、馴染みの関係継続支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性などを考えて食事の席の検討をおこなっている。入居者同士の交流の際は職員が間にはいるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の方から相談があった場合はその都度対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から本人の思いを把握できるように会話を多く持つように努めています。パーソンセンタードケアの実践に努めています。	2号館は意見・要望等を言わない人が多く、人生史を踏まえ、家族と話しながら、本人の状態や行動を見て、できるだけ意向を汲み取る努力をしている。1号館は、トイレに行きたい、お風呂に入りたい、何を食いたい等発言する人が多いが、言わない人の意向が、その声に埋没してしまわないよう、留意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に「人生史」をご家族の方に記入していただいています。入居までのサービス利用歴も連携をとり把握できる様に心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の方一人ひとりのペースで過ごしていただいています。またそれぞれの方の残存能力に応じたお手伝い等をお願いしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・スタッフなどから情報収集しアセスメント・モニタリングを行っています。その後、介護計画に反映されるように作成しています。	入居決定後、介護支援専門員が本人・家族と面会し、前施設の情報を得てカンファレンスで方針を決め、プラン原案を作成。1ヶ月程度様子を見て、スタッフの意見を聞き、本プランに切り替えている。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、6ヶ月ごとにプランの見直し・更新を実施。認知症が進行しないように、ホームで安心した生活ができるようにということを目指してプラン作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや会話内容を細かく記録するようにしています。その内容を考慮し介護計画に生かすようにしています。 4/8		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対応しサービスの提供ができるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容室からのボランティアを受け入れています。又、美容室に行ったりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、ご家族の希望を尊重し、かかりつけ医を決めるようにしています。また、適切な医療診療が受けられるように受診の援助を行っています。	本人・家族と相談の結果、現在は全員が併設の開院をかかりつけ医としている。毎週水曜日が回診日で、入居者の状態把握が行われ、かかりつけ医との密な連携が図られている。他科受診の際は家族に連絡し、基本的に職員も同行して病状把握に努めており、適切な医療受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態観察を行い異常の早期発見に努め、変化などの情報を共有し協力体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合には入院先の医師や看護師と情報交換を行い、連携が取れるようにしています。面会の頻回に行うようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアについて説明を行い同意を頂いています。又本人とご家族の意向を含め、より良い最後を迎えられるように全職員心掛けています。	入居開始時に「看取りに関する指針」を示してホームにおける看取り介護について家族に説明し、同意を得ている。当ホーム又は他施設で看取りを経験している職員がほとんどで、看取りを自然なものとして受け入れている。本人・家族の意向を確認しながら、共に生活してきた入居者の最期をより良いものにするため、スタッフ全員で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践的な経験者が少ない為、今後は実践への努力が必要と思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回、事業所内にて火災訓練を行っています。新人スタッフは火災警報器や消火器の説明も行っています。	法人全体の避難訓練を年2回、消防署・地域消防団の協力を得て実施する他、毎月ホーム独自の訓練として、消火・通報・避難等について職員の行動確認等を行っている。災害時には、法人全体の職員に一斉メールで連絡されることになっており、全体での協力体制ができています。また、水・食料・おむつ等は、3日分の備蓄が用意されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに合わせた声掛けや対応を行っています。	入居者への言葉掛けや対応等について、職員間で常に気づきを話し合い、情報を共有している。細かに声を掛けられるのを嫌がる人もいれば、素通りすると怒る人もおり、一人ひとりの性格を把握して、尊厳を傷つけない対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でのことは入居者自身に決定していただくように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃から業務優先にならないように配慮しています。また、行事の参加についても本人に尋ね参加していただくようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を着てもらっています。時々はどの服がいいか入居者様に選んで着てもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在入居者の方が調理の手伝いを行うことは入居者様が好まれない為少なくなってきました。時々玉ねぎの皮むきは手伝ってください。つわむきは入居者様もお手伝いしていただきます。	毎日、調理担当者が翌日の買い物に行き、旬の食材を購入し、頂き物等を勘案して調理している。職員は、入居者と会話しながら同じ物を食べており、家庭的な食事風景が見られた。誕生日には、その人の好きなメニューとケーキでお祝いしたり、土用の丑の日にはうなぎを出したり、お彼岸にはぼたもちを作ったり、外出の際は昼食をお弁当にして持参するなど、食事を楽しむ支援への工夫が随所に見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量はチェック表にて把握し、量が少ない方には補助食品の活用を行っています。又、特に水分量が少ない方は水分摂取量をチェックしこまめに水分補給を行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、臥床前には必ず口腔ケアを行っています。それ以外にも本人様の希望時等口腔ケアを行うようにしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握するように努めています。本人様からの排泄のサインを見逃さずに誘導しトイレでの排泄を心掛けています。	1週間分を一目で見ることができる排泄チェック表を活用して、排泄パターンの把握に努めている。できるだけトイレで快適に排泄してもらえるよう、本人の訴えや表情・仕草を見て、あるいは時間を見て、トイレに誘導している。また、オムツ等を完全に無くすと不安になる方もおり、本人にあったサイズのパットを使用しながら声かけする等、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より旬の野菜を食材にした献立作りを心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的な入浴の声掛けも行っていますが、他に希望があったときにはその都度対応しています。スタッフとマンツーマンでゆっくり入浴を楽しまれています。	入浴は週3回を基本としているが、希望により毎日の入浴も可能。2号館では、汚染時や、タイミングを逃さず入浴できるように常時お湯を浴槽に溜めている。入浴はマンツーマンで対応しており、歌を歌ったり、昔話をしたりと、入居者との大事なコミュニケーションの場となっている。また、入浴剤を使用したり、柚子湯・菖蒲湯や晩白柚を浮かべてみたりと、楽しい入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は基本的に入居者の方の好きなように過ごして頂いています。夜間も入居者の方が眠たくなるまで好きなように過ごしていただきその後休んでいただくようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者それぞれ、お薬手帳や処方箋をファイルし皆が見れるようにしています。病気と薬の種類、副作用についても把握できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方の楽しみなどを個別に対応支援しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人の希望に沿い急な希望でも対応できるように心掛けています。ご家族に協力をお願いすることもあります。	ホーム専用の車を持っており、「今日はお天気がいいから出かけよう」「新聞に載っていたところに行こう」と、行きたい時に行きたいところに柔軟な外出ができています。桜・彼岸花・菖蒲などのお花見や紅葉狩り、海を見に行ったりと、手作り弁当持参で楽しく気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方のレベルに合わせた対応をしています。現在は、自分で財布を所持されているような方は居られません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年に2回、年賀状と暑中見舞いをご家族に、できる方には本人様に一言書いていただいたり、スタッフ代筆しだしています。電話も希望があればいつでも掛ける事ができ、かかってきた電話への対応を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内での雑音は常に配慮しています。又外光の射す場所や反射する場所も把握し刺激とならないようにしています。天気の良い日には窓を開け快適な風を取り込めるようにしています。	リビングは、吹き抜けの高い天井から明るい陽射しが入り、広く開放的である。廊下や壁には、額入りの絵がいくつも飾られ、落ち着いたインテリアとなっている。リビングには、ソファと、テーブルが不規則に数カ所に配置されており、入居者は自分の1番居心地の良い場所に座ってくつろいでいる姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファを設置しています。食事の席などは利用者同士の人間関係に配慮しながら決めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に本人のなじみのある家具や品物の持ち込みをお願いしています。本人にとって居心地の良い部屋作りに勤めています。	担当制で、衣替えや部屋づくりのお世話をしている。壁に、家族写真やひ孫からのお手紙、本人の作品等が多く掲示されている部屋や、背広やジャケットがたくさん掛かった衣装掛けがおかれた男性入居者の部屋など、それぞれに居心地の良い部屋作りの工夫が伺われた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりのADLや理解力のレベルにあわせた対応をしています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370700447		
法人名	医療法人社団 開会		
事業所名	グループホームると(2号館)		
所在地	熊本県天草市下浦町2090-7		
自己評価作成日	平成27年9月18日	評価結果市町村受理日	平成27年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成27年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「最後は自分が住み慣れた場所で。そして最後まで自分の好きな事をしたい」とこの想いから私たちのグループホームはターミナルケアまで取り組んでいます。・したい事はその日のうちに・実行できる様にスタッフ間で協力しながらケアを行い、最後を迎える時には「ここ(ると)でよかった」と感じてくださる様に心のこもったケアを行っていきたいと思います。「ゆったり・楽しく・仲良く」の理念の基、入居者の方とスタッフが同じ時間を支えあいながら穏やかに過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者家族からの要望を受け「ゆったり、楽しく、仲良く」との分かり易い言葉の理念を掲げ、スタッフ全員が共有し実践できる様に努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流の場を見つけていないのが現状。地元地区の祭りには入居者は見学という形で参加し、スタッフは準備などで参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室は人員面から開催できなくなり、地域貢献のあり方を検討する必要がある。今後は進会議の場を利用して貢献案を検討中です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催を2ヶ月に一度(偶数月の第3木曜日)開催している。会議では推進委員とスタッフの会話の時間を多くもうけ、地元の話などの情報も共有できる様にしている。また委員からの意見は全職員で共有しサービスに反映できる様にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者間での連絡や情報の交換など、連携作りに努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所独自のマニュアルを作成している。玄関の施錠やベッド柵の使用も使い方によっては拘束に当たるといった認識をつたえている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のケアにおいて、お互いのケア内容を確認し、気になる事は拘束や虐待にならないかと皆で考えるようにしている。またニュースに出る事件などは全職員に掲示などで共有できる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加している。現在対象者はいないが、必要時には適切な対応ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時にすべてのご家族に説明を行い同意をもらっている。その際に、疑問についても必ず回答し納得と不安解消に努めている。また改定時にもその都度説明を行い、同意をえている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族との関係を良好にできる様に、面会時などご家族との会話を多く持つように心がけており、意見など言いやすい関係を作るようにしている。要望等があった場合は全てのスタッフへ周知し話し合いの場を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ミーティングを開催しており、その時に自由な意見が出せるように管理者からの声掛けをおこなっている。また参加できないスタッフからは意見を預かるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表や目標管理シート、職業性ストレス簡易調査表等を用いて、勤務状況の把握と職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県地域密着型サービス連絡会天草ブロック会に参加し、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談が可能な時は面談し、できるだけ顔見知りの関係になれるようにしている。また本人の話をよく聞き、その方の思いを把握することからケアの実践にあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時からご家族の関係を良好に保てるようにし、不安や要望を傾聴し、不安解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いやニーズをふまえ、他サービス利用も含め適切なサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、お互いに知っていることを話し、分からないことは尋ね、支えあいながらの暮らしの場面を作るように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時に、現在の様子を詳しく伝えるようにしている。身体的・精神的に変化が場合も事実を包み隠さず伝え、現在の様子を共有できる様にしています。面会が遠のいている方は電話での連絡を変化時行うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されるまでの人生史を尋ね把握することも、ケアを行うには大切だと考えている。それらの事を継続できる様に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互い穏やかに過ごせるように、相性など考え食事の席など、必要時は変更をおこなっている。孤立を防ぐように職員が間に入り会話など行い、良好な関係を築けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の方から相談があった場合は都度対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段、日常生活の会話の中からも、本人の意向や意思の把握を行い、実現できる様に工夫してる。困難な場合でも利用者本位のケアが行えるように心掛けている。パーソンセンタードケアの実践に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に人生史をご家族の方に記入いただいている。また今まで利用してこられたサービス歴も確認し可能な限り連携を取るようになっている。親しい知人・友人などの面会時には会話などから情報を得ようとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりのペースで一日をすごしてもらっている。状態観察を行い、残存能力の把握や表情の違いやサインなど逃さないように心掛けている。残存能力に応じた負担にならないお手伝いをお願いするようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれのプランの期間にあわせてのカンファレンスをおこなっている。状態変化時はその都度行うようにしている。出た意見はプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録には、気づきや会話内容を詳しく記入するようにしている。行動内容も具体的に記入し、その内容を考察し介護計画に反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な情報やサービスを利用できる様に視野を広げる努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々のニーズに合わせて買い物や、美容室などのお出かけ支援をおこなっている。地域資源の協働はないが、美容室からのボランティアの受け入れをおこなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重しかかりつけ医の決定をおこなっている。また適切な適切な医療が受けれるように受診の援助をおこなっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化があった場合はその都度と看護師と医院看護師に連絡を取り報告をおこなっている。情報共有を行い適切な処置が迅速に受けられるような体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方の入院時には、入院先の医師・看護師と情報交換をおこなっている。また入居者の方の不安を取り除く為にも面会は頻回に行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアを実践していることをご家族に説明し同意をいただいている。また、本人とご家族の意向を確認し、より良い最後が迎えられるようにスタッフ全員で取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人スタッフには施設内の研修に参加してもらっているが、その後の研修はおこなえていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の消防訓練を地域の消防団と合同で年2回おこなっている。事業所内においても月1回消防訓練をおこなっている。尚、スプリンクラーは設置済みである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応、話の内容など入居者の尊厳が損なわれないよう、日頃から職員間で確認し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での事は入居者自身にお尋ねし、決定していただくように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や日課などの参加は入居者の方の意思を尊重し無理強いしないようにしている。何事も入居者の方にお尋ねし、決定してもらっている。判断が難しい方にはその方の性格や今までの生活環境を考えより良い決定ができる様に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服を決めてもらったり、化粧品など使い慣れたものを用意するようにしている。声掛けなど工夫し身だしなみに興味を持ってもらえるようにもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使い、季節感が出るよう、又楽しんで食べてもらえるように盛り付けなども工夫している。利用者には食材のした処理など可能な限りお手伝いをお願いしスタッフと一緒に取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックをおこなっている。摂取量が少ない方には食べ易い、好きなものを別メニューで用意するなど行っている。必要時には栄養補助食品も活用している。摂取時間なども特にこだわらずに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後と臥床前に口腔ケアを行っている。入居者によっては毎食後の実施もある。また食事の摂取量と口腔内環境の関係にも注意するようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄チェック表を作成し、排泄パターンの把握に努めている。また排泄サインを見逃さずに誘導できる様に心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後にはヨーグルトを提供し腸内環境が良好になるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的な入浴の声掛けもおこなっているが、基本的には入浴したいときに入浴できる様にしている。夜間の入浴は行っていないが、日中はいつでも入浴ができる様に準備を整えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は入居者の方の好きなように過ごして頂いている。共有スペースのソファで過ごされたり、居室でゆっくりされたりとそれぞれである。夜間不眠傾向にあられる方は、日中外出など活発にすごしてもらい、夜間眠り易い環境作りにも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の方の処方箋はお薬手帳での管理と薬剤内容をファイルし把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方に合わせた楽しみ事の支援をおこなっている。一人ひとりの趣味が継続できる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望にあわせ急な希望でも対応できる様にしている。ご家族の協力を仰ぐこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの管理能力にあわせて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状や暑中見舞いを手書きで作成し、家族や遠方にいる親族へ送れるように支援している。電話の希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、温かい光や快適な風などを取り込めるようにしている。又季節の花や置物などを飾り、季節感が感じられるようにしている。施設内の雑音も常に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファを設置し、ゆっくり結ったりと過ごせるようにしている。入居者同士の人間関係には配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご家族の方へ馴染みの家具や品物の持ち込みをお願いしている。仏壇なども持ち込みもあり。本人にとっての居心地のよいお部屋作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの理解力やADLレベルにあわせた対応をおこなっている。		